奈良川源流域の植物　2009 年～2013 年　2 月

セイヨウタンポポ(キク科)　花も葉も地面にへばりついて寒さをよけている。

オニノゲシ(キク科)　寒いので 5 センチぐらいと低いが、もう花を咲かせている。

キランソウ(科) 寒期には根生葉が地にはりついたロゼット状になる。

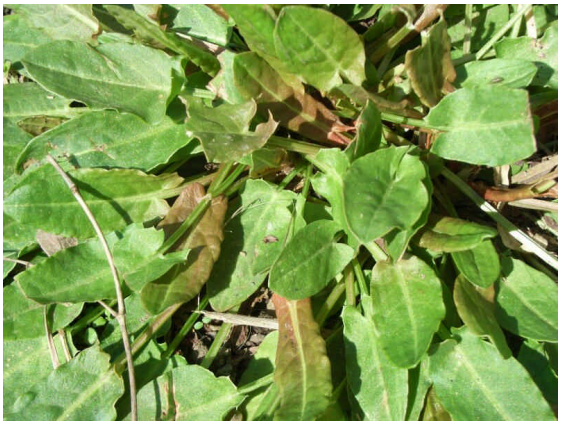
ホトケノザ(シソ科) 対生する葉が仏像の蓮華座に似ている。

ヒメオドリコソウ(シソ科) 葉は毛が密生し、葉脈がくぼんでいる。

コハコベ(ナデシコ科) 2 つに深く裂けた花弁が 5 枚あり、茎が暗紫色。(ミドリハコベでは緑色)

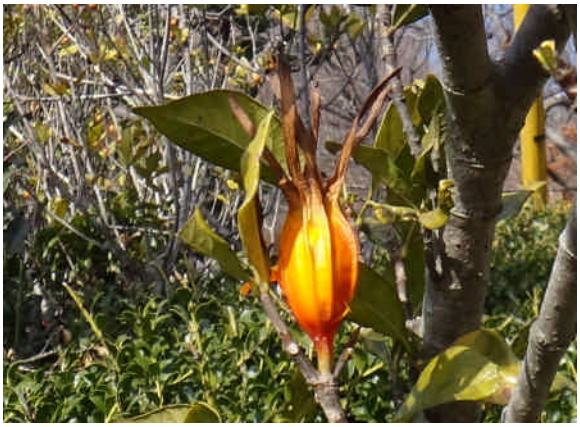
フラサバソウ(ゴマノハグサ科) 花は淡青紫色で、オオイヌノフグリの約半分の大きさ。

トキワハゼ(ゴマノハグサ科) 花は約 1 センチで上唇は紫色で下唇は白色。



スイバ(タデ科) ロゼット 葉の基部が矢じり形にとがる。(ギシギシは丸い)

タネツケバナ(アブラナ科) ロゼットでは奇数羽状複葉が放射状に広がる。



クチナシ(アカネ科) 橙色の実はタクアンなどの染料として使われる。

ミズキ(ミズキ科) 大きな冬芽が準備されている。

ヒノキ(ヒノキ科) 葉裏にY字形の白い気孔帯がある。

サワラ(ヒノキ科) 葉裏にX字形または蝶形の白い気孔帯がある。